「う」で始まる語彙辞典（メジャー）

小説・ラノベの文章表現を
豊かにしよう

はじめに

こちらの語彙辞典は、
小説投稿サイト『小説家になろう』で公開している
【小説・ラノベの書き方講座｜ビジネス思考の創作論】の中の
『小説・ラノベの文章表現を豊かにする 50 音別の語彙辞典』を
ＰＤＦレポート形式に整理したものです。

多くの語を記憶することで、
あなたの文章表現力は
今よりも豊かなものとなります。

『１日５語ずつ』などのように目標を決めて、
今の自分が知らない語を暗記していきましょう。

なお、こちらの語彙辞典は
ノマドクリエイターのショウヘイが
趣味の一環で制作したものです。

商用で販売するつもりは一切ないので、
あなたの友人・知人の作家仲間に
自由に配布してくださって構いません。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

目次

はじめに 2

「う」で始まる語彙辞典（メジャー） 4

おわりに 23

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

「う」で始まる語彙辞典（メジャー）

うえ - こ・む【植（え）込む】
［動マ五（四）］
① 草木などを土の中にしっかり植える。「ツツジを―・む」
② ある物を、他の物の中にしっかりとはめ入れる。「ボルトを基礎に―・む」

上(うえ)を下(した)へ
《上のものを下にし、下のものを上にする意から》
入り乱れて混乱するさま。「―の大騒ぎ」

魚心(うおごころ)あれば水心(みずごころ)
《魚に水と親しむ心があれば、水もそれに応じる心がある意から》
相手が好意を示せば、自分も相手に好意を示す気になる。相手の出方しだいでこちらの応じ方が決まること。水心あれば魚心。

浮(う)かぶ瀬(せ)
苦しい境遇や状態から抜け出る機会。「身を捨ててこそ―もあれ」

うがち - すぎ【穿ち過ぎ】
物事の本質や人情の機微をとらえようと執着するあまり、逆に真実からかけ離れてしまうこと。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

う‐き【雨気】
雨の降りそうなようす。雨模様。雨意。あまけ。「―を含んだ雲」

うきくさ‐かぎょう【浮（き）草稼業】
浮草のように転々として一つの場所に落ち着かない職業。また、その生活。

うき‐ごし【浮（き）腰】
① 重心が定まらない不安定な腰つき。へっぴり腰。「荷物の重さに―になる」
② 動揺したりして態度が落ち着かないこと。「強硬な反対にあって―になる」

浮(う)き名(な)を流・す
男女の恋愛に関するうわさが世間に広まる。「若い時はさんざん―・したものだ」

憂(う)き身(み)を窶(やつ)・す
① 身がやせ細るほど、一つのことに熱中すること。「恋に―・す」
② あまり価値のない、非生産的なことに夢中になること。「浮き身」と書くことが多い。「賭け事に―・す」

うき‐め【憂き目】
つらいこと。苦しい体験。「落選の―を見る」「失恋の―にあう」

う‐きょく【迂曲】
［名］(スル)
① うねり曲がること。「川が―する」
② 回り遠いこと。「やり方が―に過ぎる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うけ‐あい【請（け）合い】
請け合うこと。「成功すること―だ」「安―」

うけ‐あ・う【請（け）合う】
［動ワ五（ハ四）］
① 責任をもって引き受ける。「翻訳を―・う」
② 確実であると保証する。「品質を―・う」

うけ‐だ・す【請（け）出す】
［動サ五（四）］
① 代価を支払って質物などを引き戻す。「質ぐさの時計を―・す」
② 抱え主に前借り金などを返して、遊女などを身請けする。「芸者を―・す」

有卦（うけ）に入（い）・る
《有卦の年回りに当たる意から》
幸運にめぐりあってよいことが続く。「新商売が当たり、―・っている」

うけ‐もど・す【受（け）戻す／請（け）戻す】
［動サ五（四）］
借り金を返して、質物や抵当物件を取り返す。うけだす。「質ぐさの指輪を流れる前に―・す」

うごう‐の‐しゅう【烏合の衆】
《「後漢書」耿弇伝から》
規律も統一もなく寄り集まった群衆。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

動(うご)きが取れ・ない
制約があって思うように物事をすることができない。また、悪い状態から抜け出せない。「指令があるまで―・ない」「仕事に追われて―・ない」

雨後(うご)の筍(たけのこ)
《雨が降ったあと、たけのこが次々に出てくるところから》
物事が相次いで現れることのたとえ。

牛(うし)は牛連れ馬は馬連れ
同類は自然と集まりやすいことのたとえ。また、似た者どうしが集まると、調和がとれてうまくいくことのたとえ。

う‐しゅう【烏集】
烏(からす)の群れのように規律も統制もなく騒がしく集まること。「―の交わり」

うしろ‐だおし【後ろ倒し】
《「前倒し」に対して作られた語。「あとだおし」とも》
予定の時期を先に延ばすこと。先送り。「開始時期を―にする」

うしろ‐まえ【後ろ前】
洋服などの後ろと前とが逆になること。「帽子を―にかぶる」「―に着る」

牛(うし)を馬に乗り換える
歩みの遅い牛を捨てて速い馬に乗り換えるように、不利なほうをやめて好都合なほうに便乗することのたとえ

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うじゃ・ける
［動カ下一］
果実が熟れすぎてくずれる。また、傷あとなどがただれて、くずれる。うじゃじゃける。「ザクロが―・ける」「傷口が―・ける」

うす‐あま・い【薄甘い】
［形］［文］うすあま・し
かすかに甘味があるさま。「―・花の香り」

薄紙(うすがみ)を剥(は)ぐよう
悪い状態、特に病気が少しずつよくなっていくようす。「―に顔色がよくなる」

うす‐くらがり【薄暗がり】
少し暗いこと。また、その場所。「―に身をひそめる」

うす‐ぐも・る【薄曇る】
［動ラ五（四）］
雲や霞(かすみ)が薄く一面にかかって空を覆う。「空が、急にさっと―・ると」

うす‐ぐろ・い【薄黒い】
［形］［文］うすぐろ・し
少し黒い。ぼんやりと黒みがかっている。「―・い疲れた顔」「―・く汚れた手」

うす‐ざむ・い【薄寒い】
［形］［文］うすざむ・し［ク］《「うすさむい」とも》
かすかに寒さを感じる。うそさむい。うすらさむい。「春の宵はまだ―・い」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うす - づ・く【臼搗く】
［動カ五（四）］《「うすつく」とも》
穀物などを臼に入れて、杵(きね)でつく。「麦を―・く」

うす - づくり【薄作り／薄造り】
透けるほど薄くそぎ切りにした刺し身。「フグの薄作り」⇔厚作り。

うす - べった・い【薄べったい】
［形］
いかにも薄い。「薄い」を強めていう語。「―・い本」

うす - ぼ・ける【薄ぼける】
［動カ下一］
色や輪郭などが少し不鮮明になる。ぼんやりとなる。「―・けた文字」「―・けた思い出」

うす - やみ【薄闇】
何とかものの形などがわかる程度の暗さ。

うす - よご・れる【薄汚れる】
［動ラ下一］［文］うすよご・る［ラ下二］
なんとなく汚れた感じである。薄ぎたなくなる。「―・れたシャツ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うすら・ぐ【薄らぐ】
［動ガ五（四）］
① 薄くなる。淡くなる。「靄(もや)が―・ぐ」
② 物事の度合いが減る。程度が弱まる。「関心が―・ぐ」「寒さが―・ぐ」

うすら‐さむ・い【薄ら寒い】
［形］［文］うすらさむ・し
① 少し寒い感じである。うすさむい。「―・い秋の朝」
② 心が寒気を感じるさま。なんとなく寒いものを感じるさま。「厭世的な風潮に―・いものを感じる」

うす‐わらい【薄笑い】
［名］（スル）
かすかに表情を動かしただけの笑い。うすらわらい。多く、人を小ばかにしたときや困惑したときの笑い方。「―を浮かべる」「人の失敗を見て―する」

うす‐わら・う【薄笑う】
［動ワ五（ハ四）］
小ばかにしたような笑みをかすかに浮かべる。

う‐せい【雨声】
雨の降る音。「明け方、窓外に―を聞く」

うそ‐さびし・い【うそ寂しい】
［形］［文］うそさび・し［シク］
どことなく寂しい。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うそ - さむ・い【うそ寒い】
［形］［文］うそさむ・し［ク］
① なんとなく寒い感じである。うすら寒い。うす寒い。「―・い秋の夕暮れ」
② 心が冷え冷えとするさま。心が寒気を感じるさま。うすら寒い。うす寒い。

嘘(うそ)で固・める
嘘ばかりで話などをまとめる。「―・めた報告書」「―・めた世渡り」

うそ - の - かわ【×嘘の皮】
うわべをとりつくろった全くの嘘。嘘であることを強めていう。

うそ - ぶ・く【嘯く】
［動カ五（四)］《「嘯(うそ)吹く」が原義》
① とぼけて知らないふりをする。「そんなことがあったかね、と平気な顔で―・く」
② 偉そうに大きなことを言う。豪語する。「絶対に優勝してみせる、と―・く」
③ 猛獣などがほえる。鳥などが鳴き声をあげる。「虎―・けば風騒ぐ」

うぞう - むぞう【有象無象】
取るに足りない種々雑多な人々。多く集まったつまらない連中。「―の輩(やから)」

うたい - もんく【謳い文句】
広告や効能書きなどで、人の注意や興味を引くために長所・効果などを強調した言葉。キャッチフレーズ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うた - かた【泡＝沫】
《「うたがた」とも》
① 水面に浮かぶ泡(あわ)。「―の如(ごと)く消える」
② はかなく消えやすいもののたとえ。「―の恋」「―の夢」

うち - おとり【内劣り】
外面はりっぱであるが、内容が貧弱なこと。

うち - かさな・る【打（ち）重なる】
［動ラ五（四)］
① 重なり合う。折り重なる。「人々が―・なるようにして倒れた」
② 同じような事が繰り返し起こる。「―・る災難」

うち - ぎらい【内嫌い】
家にいることを嫌い、外出ばかりしたがること。また、そのような人。出好き。⇔外嫌い。

うち - しお・れる【打ち萎れる】
［動ラ下一］［文］うちしを・る［ラ下二］
① 草木が生気なくしぼんだ状態になる。「炎天続きで庭の草花が―・れる」
② 気力がくじける。しょげかえる。「伴侶を失い見る影もなく―・れる」
③ 衣服がぬれて、くたくたになる。

うち - しょく【内食】
［名］（スル）
家庭で食材を料理して食事を食べること。また、その食事。→中食(なかしょく）→外食

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うち - す・える【打（ち）据える】
［動ア下一］［文］うちす・う［ワ下二］
① 起き上がれなくなるほど、ひどくたたく。「むちで―・える」
② しっかりとすえる。「土台を―・える」

うち - とお・す【打（ち）通す】
［動サ五（四）］
① 演劇などの興行を長期間続ける。「新作の芝居が大当たりで二か月も―・した」
② ある行為を最後までやり抜く。「三日間のストを―・す」

うち - と・める【打（ち）止める／打（ち）留める】
［動マ下一］［文］うちと・む［マ下二］
① 物を打ちつけて落ちないようにする。「表示板を―・める」
②《「うちどめる」とも》芝居・相撲などで一つの興行を終える。「今日で巡業を―・める」
③（「撃ち止める」とも書く）鉄砲などで撃ち殺す。しとめる。「獲物を一発で―・める」
④（「討ち止める」とも書く）切り殺す。「一刀のもとに―・める」

うち - べんけい【内弁慶】
［名・形動］家の中ではいばりちらすが、外では意気地のないこと。
また、そのさまや、そういう人。陰弁慶。「―な子供」

うち - もら・す【討（ち）漏らす】
［動サ五（四）］
討ち取ることができず逃がしてしまう。「敵将を―・らす」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

う - ちゅう【雨中】
雨の降るなか。「―の熱戦」

内(うち)を空(あ)・ける
外出したり外泊したりして家にいない。「夜遊びをして―・ける」「家族で温泉に行くので二、三日―・ける」

内(うち)を外(そと)に◦する
遊び歩くなど外出ばかりして家にあまりいない。家を外にする。

うっ - き【鬱気】
気のふさぐこと。心の晴れ晴れしないこと。気鬱。「―を払う」

うっ - けつ【鬱結】
［名］(スル)
ふさがり滞ること。「血液が―する」

うっ・する【鬱する】
［動サ変］［文］うっ・す［サ変］
心がふさぎ、気持ちが晴れ晴れしない。心が沈む。「なんとなく気が―・する」

うっ - せき【鬱積】
［名］(スル)
① 不平不満や怒りなどの感情が、はけ口のないままに心の中に積もっていること。「心中に―した憤懣(ふんまん)」
② 出口をふさがれて、内に滞りたまること。「―した疲労」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うつ - うつ【鬱鬱】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
心の中に不安や心配があって思い沈むさま。「―として日を過ごす」

うつ - ぜん【鬱然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
① 草木がこんもりと茂っているさま。鬱蒼(うっそう)。「果樹が―と生茂り」
② 物事の勢いよく盛んなさま。「―たる反対派の動き」
③ 気がふさがるさま。うつうつ。「―として楽しまない」

現(うつつ)を抜(ぬ)か・す
ある事に夢中になり、心を奪われる。「競馬競輪に―・す」

うつ - ぼつ【鬱勃】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
内にこもっていた意気が高まって外にあふれ出ようとするさま。また、意気が盛んなさま。「―たる闘志」

うつり - が【移り香】
ある物に伝わって残っている、他のものの香り。残り香。

移(うつ)れば変わる
時がたつにつれて物事の状態がどんどん変わる。「三年もたてば、人の心も―だ」

打(う)てば響・く
働きかけるとすぐに反応する。「―・く受け答え」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

雨天(うてん)の友(とも)
逆境の時に支持してくれる友人。また、厳しい忠言をしてくれる友人。

腕(うで)をさす・る
手腕を振るう機会を待ち望む。「―・って出番に備える」

腕(うで)を鳴ら・す
① 自分の腕力や技能が思う存分発揮できる機会を待ち構える。
② 技能を人々に示して認められ、名声を広める。

腕(うで)を撫(ぶ)・す
腕前が十分に発揮できる機会を待つ。「―・して待望する」

うとうと - し・い【疎疎しい】
［形］［文］うとうと・し［シク］
親しみや関心をもっていない。よそよそしい。

兎(う)の毛(け)で突いたほど
きわめて微細なことのたとえ。ほんの少し。「―のすきもない」

鵜(う)の目鷹(たか)の目
鵜や鷹が獲物を求めるように、熱心にものを探し出そうとするさま。また、その目つき。「―で掘り出し物を探す」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

馬(うま)には乗ってみよ人には添うてみよ
馬のよしあしは乗ってみなければわからず、人柄のよしあしはつきあってみなければわからない。何事も自分で直接経験してみよということ。

うまれ - あわ・せる【生（ま）れ合（わ）せる】
［動サ下一］［文］うまれあは・す［サ下二］
ある事が起こった、または、ある状態になった、その時期に生まれる。うまれあわす。「太平の世に―・せる」

馬(うま)を牛に乗り換える
速い馬から、のろい牛に乗り換える。すぐれたものを捨てて、悪いものに取り換えるたとえ。⇔牛を馬に乗り換える。

うみ - の - くるしみ【生みの苦しみ／産みの苦しみ】
① 子を産むときの激しい苦しみ。
② 物事を新しく作り出したり、しはじめたりするときの苦労。

海(うみ)の物とも山の物ともつか・ない
物事の正体・本質がつかめず、将来どうなっていくか見当のつかないたとえ。海とも山とも知れず。「始めたばかりで、まだ―・ない新商売だ」

海(うみ)を山にする
無理なことをするたとえ。「―ようなものだ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うめ - くさ【埋め草】
空いたところや、欠けた部分を埋め補うもの。雑誌・新聞などの余白を埋めるために使う短い記事。「―原稿」

烏有(うゆう)に帰(き)・す
すっかりなくなる。特に、火災で焼けることにいう。「戦災で貴重な資料が―・した」

うら - が・れる【末枯れる】
［動ラ下一］［文］うらが・る［ラ下二］
冬が近づき、草木の枝先や葉先が枯れる。「―・れた野山を歩く」

裏(うら)には裏があ・る
物事の裏面には容易には知りがたい複雑な事情や仕組みがある。

裏(うら)の裏を行・く
相手のたくらみを見抜いて、相手を出し抜いた行動をする。「敵の―・く計略」

うら - ぶ・れる
［動ラ下一］［文］うらぶ・る［ラ下二］
落ちぶれて惨めなありさまになる。不幸な目にあったりして、みすぼらしくなる。「―・れた生活」

裏(うら)へ回・る
人目につかないところで行動する。「―・って画策する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

恨(うら)みを飲・む
《江淹「恨賦」から》
恨みの気持ちを心の中にこめている。くやしい気持ちをこらえる。

裏(うら)を取・る
確かな証拠や証人を捜し出すなどして、供述・情報などの真偽を確認する。裏付けを取る。「犯人の自白の―・る」

うり‐き【売（り）気】
商品を売りたいという意気込み。売ろうとする気配。⇔買い気。

うり‐しぶ・る【売（り）渋る】
［動ラ五（四）］
売るのを手控える。たやすく売らない。「値上がりを見越して業者が―・る」

うり‐たた・く【売り叩く】
［動カ五（四）］
① 換金の必要から、損を承知で売る。「金策のために在庫品を―・く」
② 相場を下落させるために安い値で盛んに売る。「手持ち株を―・く」

うるみ【潤み】
湿りけを帯びること。また、その湿りけ。「―をたたえた黒い目」

うるみ‐ごえ【潤み声】
涙がちの声。今にも泣きだしそうな声。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うれ - あし【売れ足】
売れ行きの早さ。売れ行きの度合い。「不況で―が鈍る」

うれい - がお【憂い顔／愁い顔】
心配そうな顔つき、表情。また、もの思いに沈んだ悲しげな顔つき。

うれしい悲鳴
予想以上の好結果を喜びながら、一方で忙しさを嘆く声。「押すな押すなの盛況に主催者が―をあげる」

うれし - なき【嬉し泣き】
［名］（スル）
うれしさのあまりに涙を流すこと。「誕生日を祝われて―する」

うれし - なみだ【嬉し涙】
あまりのうれしさに流す涙。「―にむせぶ」

噂(うわさ)をすれば影
ある人の噂をしていると、不思議にその当人がそこへ来るものだということ。噂をすれば影が差す。

うわ - すべり【上滑り】
［名・形動］（スル）
① 物の表面がすべすべしていて、よく滑ること。「雨で路面が―する」
② 物事の表面にとらわれて、本質を見抜けないこと。軽々しいこと。また、そのさま。「―な（の）議論」「―な行動」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

上手(うわて)に・出る
人を威圧するような態度をとる。高姿勢に出る。高飛車に出る。「相手が弱いとわかるとすぐ―・出てくる」

上手(うわて)を行(い)・く
能力や性格などが、他の人より優れている。

うわ - のり【上乗り】
［名］(スル)
船や車で運ぶ荷物とともに乗っていくこと。また、その人。「トラックに―する」

うわ - ぶれ【上振れ】
［名］(スル)数値・指標などが想定したものよりも上がること。「国内景気が―する可能性は低い」「―リスク」⇔下振れ。

うわ - ぶ・れる【上振れる】
［動ラ下一］
上振れすること。「業績が―・れる」→上振れ

上前(うわまえ)を撥(は)・ねる
他人に取り次ぐ賃金や代金の一部を自分のものとする。かすめとる。上前を取る。ピンはねをする。

うん - か【雲霞】
① 雲と霞(かすみ)。
② 大ぜいの人が群がり集まるたとえ。「―のごとく押し寄せる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

うん - がい【雲外】
雲の外。また、空のはるか遠い所。雲上。「機影が―に消える」

うんごう - むしゅう【雲合霧集】
《「史記」淮陰侯伝から》雲や霧のように、多くの人がどっと群がり集まること。

うん - さん【雲散】
［名］（スル）
風に雲が散るように、すっかり消えてなくなること。「雄大な眺望に、それまでの疲れが―した」

うん - しゅう【雲集】
［名］（スル）雲のように多数の人が集まること。
蘊蓄（うんちく）を傾・ける自分の持っている知識・技能のすべてを出しつくす。「―・けて書いた本」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

おわりに

【あいさつ】

語彙辞典を読んでくださり、ありがとうございました。

当レポートを制作したショウヘイと申します。

私は旅する作家という生き方を理想としています。日本や世界の各地を渡り歩くことで、作家としての引き出し（人生経験）を増やし、より良質な物語を世に送り出し続ける……そんな自由な作家生活です。

また、個人で稼ぐ能力を身に付けることで、会社に時間と場所を縛られない人生の実現も目指します。個人で安定した収入を得られれば、出版社の編集者の言いなりにならずに、自分が心から好きな物語を創作できるようにもなるからです。

私が運営しているブログ【ノマドクリエイターの執務室】では、旅する作家になるために役立つ情報を発信しています。もちろん、小説家・ラノベ作家として活躍するために役立つ創作論も公開しています。

時間と場所に縛られない、新しい作家の生き方に興味がありましたら、ぜひブログを覗いてみてください。

↓　　↓　　↓

■ ブログ：ノマドクリエイターの執務室（https://ノマドクリエイター.net）

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.